

2015 年度事業完了報告ダイジェスト

< 2015 年度事業の主な実績、課題 >

公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

全体／東京事務所

1. 事業展開、組織運営

- 25年目を迎えたカンボジアにおける事業について、同国での今後のシャンティの役割、方向性を検討していくためのタスクチームを立ち上げました。現状分析を行い、戦略策定のため話し合いを2016年度にかけて進めていきます。
- 運営現地化人材育成計画におけるリーダー・調整員クラスの職員の能力強化の一環として、ミャンマー事業事務所で4月に「人権に基づく開発アプローチ」の研修を行いました。
- 2015年4月25日に発生したネパール中部地震被災地支援を実施しています（2016年4月末まで継続予定）。2015年末時点で、学校仮校舎124棟、トイレ34棟、女性向けシェルター（子ども遊び場スペース併設）7棟の建設および水タンク14棟を設置、19校の学校に学用品・遊具の配布をしました。また、現地NGOスタッフ向けにミャンマー（ビルマ）難民キャンプのスタッフを講師に迎えた図書館研修を実施しました。
- 2015年9月に発生した北関東豪雨被害において、茨城県常総市に職員を派遣し、ボランティアセンター運営支援およびコミュニティ支援（サロン活動）を実施しました。
- 東日本における復興支援事業（2013～2015年）の最終年にあたり、各事務所における事業の収束について協議を重ね、具体的な方向性の確認をしました。また、福島において地域の人々と進める支援活動について方向性を確認、具体的な事業形成に着手しました。
- 2015年夏季のNGO海外研修プログラムにラオス事務所2名、ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所2名を派遣しました。2016年春季にはラオス事務所1名、ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所2名の派遣準備を行いました。

2. ネットワーク、政策提言

- カンボジアで図書館活動を20年以上続けてきた成果の一つとして、昨年から教育省主催による「認定図書館研修」が開催されることになり、今年からは資金面を含めた自立的な開催が行えるようになりました。4月には第2回目の研修会が開催され、シャンティは技術面からのサポートを継続しています。また、同省リードの下、「読書推進ガイドライン」策定のためのワーキング・グループが発足、シャンティもメンバーとして協力を行っています。
- カンボジア事務所では図書館活動を行う他団体（Room to Read, SIPAR）、大学機関と協力してReading Dayという番組作りへの協力を行った他、スラム事業、CLC事業も国内TV番組で紹介され、カンボジア社会における認知度の向上につなげることができました。
- 海外事業に関わる各ネットワークに参加し情報収集、情報共有を行いました。また、アフガニスタン、ミャンマー（ビルマ）難民事業に対する公的資金支援を継続させていくため、他のNGOとともにロビイング活動を積極的に展開し、一定の成果を得ることができました。
- 2015年3月、仙台で開催される第三回国連防災世界会議において、他団体と連携し気仙沼および山元事務所での取組を紹介し、防災につながるまちづくり・ひとづくりの大切さをアピールしました。
- MDGsに向けた国際社会の15年間の取り組みを通じて、世界各地で成果がみられた一方、教育セクタに関わる目標においても多くの課題が残る結果となりました。9月に採択された次の15年間の国際開発目標、SDGsに掲げられる「持続可能な開発目標4：すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」達成に向け、シャンティのそれぞれのフィールドにおいても貢献に向けた事業を実施していきます。

- 教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)の事務局の事務局として、韓国で5月に開かれた世界教育フォーラムに向けた政策提言活動を行いました。日本政府が9月の国連総会で発表した新教育協力政策にインプットしました。EFA グローバルモニタリングレポート日本語版の発行、同発表シンポジウムの開催、EFA についてのキャンペーン（「世界一大きな授業」）を実施しました。
- 安全保障関連法案に関わる一連の動きに際し、貧困、飢餓、テロの解決において、武力がその目的を達成する術にはならないこと、対話に基づく相互理解、平等な機会と権利の保証こそが負の連鎖を断ち切る唯一の手段であることを現場で活動する立場、NGO・シャンティの立場から政府・市民社会に対し意思表示を行いました。意を同じくするNGOのネットワーク組織、「非戦ネット」に参画、共同声明を発表しています。

3. 広報、財政、ファンドレイジング

- アジア子ども募金（無指定募金の総額。夏や冬 DM 募金、商品券等、国際ボランティアの寺、チャリティ寄席、梅花大会募金）は、総額で約 6,814 万円、前年比で約 693 万円増となりました。しかし、予算 7,370 万円に比べて、566 万円減です。抜本的な改善策が急務となっております。
- DM（ダイレクトメール）による夏募金 1,473 万円（目標比 102%）、冬募金は 1,888 万円（目標比 79%）。今回、冬募金の送付時期を例年よりも早い時期に送付する工夫を行いました。今後も DM 数を維持する方法の検討が必要となります。
- 2014 年 9 月より 12 月までアフガニスタンの学校建設のファンドレイジングとして「お宝エイド」を実施した貴金属、古物の買取りを行なう「おたからや」と引き続き「お宝エイド」を通じた支援を継続していきます。参加しやすい取り組みにするためにも、着払い封筒を作成し、「らでいっしゅぼーや」会員 5,000 部、梅花大会にて配布、11 月には朝日新聞生活面にて記事掲載された結果、上半期の目標達成率 6%から、後半で参加率が改善し 340 万円(523 件、目標達成率 40%)となりました。
- 遺贈パンフレットを 2 月に作成。上期中に 3 件（計 2600 万円）からご遺志を寄託いただきました。
- 2015 年は 1,784 人の方が会員として継続的に支援を下さっています。内訳は社員会員 302 人（内、個人 251 団体 51）賛助会員は 1482 人（内、個人 1300 団体 182）です。
- アジアの図書館サポーターは登録者 1,340 件（入会：172 名 退会 72 名）となりました。入会経路としては、テレマ 79 名、図書館 31 名、HP 26 名、その他（既存、ER 募金、再入会、メディアなど） 36 名となっています。内、新規支援者（ATS が初めての支援の方）は 60 名と入会者の 3 割以上を占めました。また、ATS の方への誕生日プレゼントが好評で、来年も継続して行います。
- 図書館と連携した活動を実施。講演会への講師派遣、展示、ワークショップなど 25 館と連携しました。
- 絵本作家かこさとし先生に活動へのご理解をいただき、チャリティー筆箋を作成。また先生のご好意で複製原画をお借りし、リプロ池袋本店で展覧会と一筆箋の販売会を行ないました。絵本を買いにくる人たちからはシャンティの活動へ理解を得られやすいと仮定し、他の書店にも同様の企画ができないか営業しています。
- チャリティ寄席を今まで行なってくれた 184 寺にアンケートを送り 73 寺から回答をいただきました。ご寺院に人が来る良いきっかけという声が多数寄せられました一方で、開催費用の負担が大きいといったご指摘もいただきました。頂いた声をチラシなどに反映し、2015 年は 385 万円（62 回、目標比 89%）となりました。
- 国際ボランティアの寺募金は 1,100 万円（目標比 81%、187 件）でした。昨年よりも募金額は改善しました（昨年比 110%）。今後は、実際にご挨拶する機会を増やしてまいります。また、曹洞宗各県宗務所が主催する梅花大会では、総額 248 万円（目標比 113%、33 大会）をお寄せいただきました。
- 「絵本を届ける運動」は、目標冊数を達成し、16,600 冊を収集しました（2014 年度 15,100 冊）。このなかには、要請が高まっているミャンマー向けのビルマ語の絵本 3,000 冊（2014 年度 600 冊）が含まれ

ています。国内の新規参加者は、個人 510 名、企業・団体 66 件（2014 年度では各々 255 名、32 企業・団体）でした。今後、他の事業・活動へご参加いただけるように努めていきます。また、ご参加者の利便性も鑑み、郵便振込のほかに、新しくコンビニ決済も導入していきます。

- 「クラフトエイド」は、プロのデザイナー（プロボノ）のご支援を引き続き頂き、主にタイ、カンボジアで新商品を開発、販売をして新開発商品は約 700 万円となりました。今後は業務の効率化を通じて収益構造の改善をさらに進め、さらなる新商品の開発を進めると共に、新規の取引先の開拓に努めていきます。また、ご支援者の利便性を高める為にカード決済の導入も進めていきます。

4. 組織運営、経営

- 3月に役員改選を実施、新たに5名の理事、監事を迎えました。同理事による担当部会を再編、上期には東日本部会、海外事業部会、35周年事業部会が各一回ずつ開催し、組織・事業に関わる内容、展開方針についての議論を進展させました。
- 公益社団法人に移行後、内閣府による初めての立入検査が12月に実施され、問題なく終了しました。
- 本部会計に対する期中2回及び期末外部監査を実施しました。また海外では、6月にミャンマー事務所の内部監査を、9月にはカンボジア事務所の監事監査を行い、事業と組織運営、経理の多方面から指導と助言を進めました。
- 管理会計として、月次会計報告と四半期ごとの決算見積を作成しました。2016年度からはこれらを財務分析に活用していく予定です。
- 次年度12月に迎える設立35年を節目として、5ヶ年中期目標の達成、またひいてはシャンティが掲げる「使命」、「目指す姿」の実現をはかるために、組織運営全体のグランドデザインの再考、基本運営施策の検討を開始しました。2016年度の1年間を「おどり場」と位置づけ、施策の立案、並行して展開をスタートさせていきます。

5. 職員（人材）育成

- 団体のミッションの下に求められる人材像を明示した人材育成方針の準用を開始。OJTを中心に、またOFF-JTについては、必要性和優先度を判断しながら諸研修を実施しました。また、昨年度から運用を始めた新たな人事考課制度の運用についても、海外事務所派遣職員のための考課シートを作成、下期より試行を開始しました。
- 5月にミャンマー（ビルマ）難民事業事務所で、ミャンマー事務所スタッフの図書館研修が行われました。また、現地スタッフの招聘プログラムではシーカーアジア財団も含めた5事務所からスタッフが来日して、ご支援者等の先で事業報告を行わせていただきました。6月には、カンボジア事務所のロアットスタッフが幼児教育研修に参加しました。
- 外務省主催 NGO 海外スタディ・プログラム制度を活用し、鈴木晶子スタッフが6月から2か月間にわたって米国のNPOにおける研修に参加しました。

タイ／シーカーアジア財団(SAF)

2015年度の振り返り

プラユット暫定政権が進める政策の一つに、国境地域の経済特区開発があります。ターク県メーソットは優先的に開発を進める5地域の内の一つに選定されています。国境の街メーソットは、東西経済回廊の要衝として、今後物流や投資、雇用に期待がかけられています。この国境地域の開発は、近隣諸国の労働力をタイに取り込む狙いがあります。一方、水産加工工場が集積するサムットサーコーン県マハーチャイ地区は、タイ労働省雇用局資料によると、ミャンマー移民労働者117,249人(正規登録者数)が存在する地域です。本格的に開始されるアセアン経済共同体と大規模な開発を背景に、国境を越えた人の移動がより活発になることが予想されます。移民労働者が抱える大きな問題の一つに、一緒にタイにやってくる子どもの教育の問題があげられます。タイの教育の側面においては、無償教育制度が導入されておりますが、実際の学校現場では運営資金が不足し、保護者からの追加徴収が行われています。

SAFは、タイ社会で困難な状況に置かれている都市スラムの子どもたち、少数民族や移民労働者の子どもたちへの教育の機会拡大を目指し、2015年度も各種事業に取り組みました。

2015年3月、シャンティとSAF間において覚書の調印が行われ、SAFは名実ともに自立を迎えました。4月には、ネパールでの大地震発災を受けて、3地域(クロントイ・スラム、チュアパーン・スラム、スアンプルー地区)で奨学生や図書館の子どもたちが募金の呼びかけを行い、集まった志はシャンティ経由でネパールでの被災者支援活動に役立てられました。

事業	2015年度の主な実績／課題
<p>1. パヤオ県、ターク県、バンコク・スラム地区における教育の機会改善事業(奨学金事業)</p> <p><プロジェクト目標></p> <p>「対象の学生が各就学学年を進級できる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2015年度奨学金事業では、全体で433人の中学生・高校生・大学生に奨学金を支給しました(昨年度より56人増加)。内訳は中高生409人(バンコク65人、ターク県208人、パヤオ県136人)、大学生24人です。奨学生情報をデータ化した2003年度から2015年度までの期間に支援を行った奨学生の延べ人数は、5,635人となりました。 ● ターク県、パヤオ県では、学校教員と連携し、合同会議を開催し、奨学金生の選考、申請手続きを進めています。今年度よりバンコクでの支給口数を増やし、バンコクでも学校3校との連携が始まりました。 ● 2月から3月にかけて、奨学金事業担当職員が、3つの対象地域で家庭訪問を実施。その後、選考基準に照らし合わせ奨学生を選定しました。 ● 奨学金授与式は前期と後期で2回開催しました。 ● 6月に奨学金事業担当スタッフが訪日する機会をいただき、日本のご支援者、関係者へ奨学生がおかれている現状を報告しました。 ● 2015年度の支援受付は、タイの教育年度に合せた2016年3月までとなり、目標口数達成まであと45口です。

カンボジア事務所

2015年の振り返り

長年の図書館活動の成果の一つとして、今年カンボジアにて3月11日が「国民読書の日」として制定されました。その他の主なトピックとして、多くのNGOや国際機関の反対、各国政府の懸念表明、野党のボイコットにも関わらず、カンボジアで初めてのNGO法案が承認・施行されることが決まりました。

教育省は教育の質の向上に焦点を置き、教員の給料を月額125米ドルから162米ドルへと引き上げました。また、高校の卒業試験の合格者率が55.6%と、昨年比べて30%向上しました。

事業面では、新たに幼児教育の質の改善事業を開始しました。また、シャンティのコミュニティラーニングセンター（CLC）がモデルとなり、カンボジア国内においてCLCガイドラインが制定されました。加えて、CLC事業が世界各地50案件の中からESD岡山アワード2015のグローバル賞を受賞しました。

事務所体制に関しては、昨年と同様3事務所体制です。昨年からの主な変更としては、図書館専門家をテクニカルサポート課に置き、各事業間の協力体制の強化を行うために、テクニカルサポート課のマニュアル作成に取り掛かりました。

事業	2015年度の主な実績／課題
<p>1. ドリーム小学校事業 <プロジェクト目標> 「対象の小学校における内部効率率が向上する」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2014年に建設した6校の小学校において、2度目の図書館員研修と図書の配布を実施しました。また、本事業全対象校の計17校のモニタリングを行い、事業実施後の教員等へのフォローアップを行いました。今後終了時評価を行います。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対象校の数校にて図書館員が移動となり、新しく赴任した図書館員に研修がなされていないということがわかりました。教育局、郡教育局には学校内での適切な引継ぎが行われるよう要求しています。
<p>2. 小学校建設活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バタンバン州5校、バンテイミンチェイ州2校の小学校校舎建設を行いました。
<p>3. 住民参加による学校図書館運営事業 <プロジェクト目標> 「対象校において、「学校図書館スタンダード・ガイドライン」に基づいた図書館運営が、地域住民の参加のもとで維持される」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2014年の事業対象である8校の小学校において、2度目の図書館員研修と図書の配布を実施しました。また、本事業全対象校の計24校のモニタリングを行い、事業実施後の教員等へのフォローアップを行いました。今後終了時評価を行います。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ドリーム小学校事業と同様の課題及び対応をしています。
<p>4. 図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター事業 <プロジェクト目標> 「対象集合村の住民が生活向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たなコミュニティラーニングセンター（CLC）がコンポントムに1ヶ所、バンテイミンチェイ州に2ヶ所開館し、現在合計で5館のCLCが週に5日～6日運営されています。内3館のCLCにて、週6日7ヶ月行われる識字教室が行われ、3館で計72名の生徒が学び、内69名の生徒がコースを修了しました。 ● 3館のCLCで、ローカルNGO CEDACとの協力により、3種（野菜栽培、養鶏、稲作）の研修を計54名の農業普及員に実施しました。

<p>の基礎となる知識・能力を獲得し、生活の質が改善する」</p>	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図書館機能の強化、他 NGO 間の支援調整、事業モニタリングのシステム化、業務の合理化等があります。
<p>5.バットンバン州の公立幼稚園における幼児教育の質の改善事業</p> <p><プロジェクト目標></p> <p>「対象の幼稚園において、効果的な教授法（おはなし、教材制作、ゲーム、場づくり）と魅力的な教室環境により、幼児教育活動の質が改善される。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 天竜厚生会（静岡県浜松市）との協力の下、幼児教育マニュアルを開発しました。 ● 教室のレイアウトや家具のデザインを制作しました。 ● サンプル 3 校に啓発研修、教室装飾研修を行い、本棚や教材棚等の家具や絵本を配布しました。内 2 校において教室の改装を行いました。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 協力機関である州教育局が他機関との業務で多忙のため、シャンティの事業への参加及び協力が満足に行くレベルには達していない状況です。そのため、州教育局だけではなく郡教育局との協力も強化していきます。 ● 教育省の幼児教育におけるカリキュラム開発や現職教員研修の動きが比較的早く、常に連絡を取りながら情報収集を行うことが求められています。
<p>6. 伝統文化支援～仏教学校における図書館推進事業</p> <p><プロジェクト目標></p> <p>「仏教教育局、初等部、中等部の運営能力が強化される」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プノンペン 1 寺院とコンポンチャム州 4 寺院に仏教図書館を設置しました。 ● コンポンチャム州の 4 つの仏教図書館で図書館運営研修会を実施しました。後日、仏教図書館ワーキンググループとフィードバックし、設置後の運営を毎月モニタリングしました。年末には図書館員たちと年次会議を行いました。 ● 仏教教育ワーキンググループの計画予算書作成を助力するために研修会を実施、また、成果と進捗をみるためのフォローアップ調査を行いました。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図書館員たちの能力差が判明、特に図書の分類・登録が苦手な図書館員が多く、シャンティがフォローアップ指導していく必要があります。 ● 仏教教育関連のネットワークを作るための関係団体発掘に困難をきたし、代替案を模索中です。
<p>7.スラムのコミュニティ図書館推進事業</p> <p><プロジェクト目標></p> <p>「対象コミュニティにおける子どもたち・青年・成人の教育を受ける機会が増加される」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アピワットミンチェイ・スラムに常設コミュニティ図書館の建設が完了、図書・家具・PC を供与し、図書館運営と活動の研修会を実施しました。また、識字教室や生活向上教室を行いました。アンロンカガン・スラムでは、図書館を設置する賃貸物件が決定し、識字教室が年末に開始しました。上記 2 スラムとプノンバット・スラムで、家庭菜園や保健衛生など生活向上研修が実施しました。 ● 移動図書館活動を、対象コミュニティの 5 ヶ所のスラムで実施しました。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 用地の確保が難しく、2 棟目の図書館は賃貸物件となりました。

ラオス事務所

2015年度の振り返り

ASEAN 統合を控えた 2015 年度のラオス国は、周辺国との連結性の強化、都市部と地方農村部の格差是正を中心に取り組んでいる中、教育スポーツ省は社会開発の基盤となる人材育成のため、地方農村部における教育環境の整備・教育の質と学校運営の改善に向けた計画を立てています。

ラオス事務所は、同省の計画に沿い、ラオス北部のルアンパバーン県にある貧困ランキング 13 位（/143 郡）のヴィエンカム郡を対象に事業を実施しています。都市部から離れた土地にあり、また貧困が恒常化し、少数民族の割合が 9 割に及ぶ同郡には、新聞も届かず、家庭にテレビやラジオもない地域が多いため、公用語のラオ語を習得している子どもたちの割合が非常に低くなっています。

このような環境で、ラオス事務所は、子どもたちが教育にアクセスしやすくすることを目指した学校・トイレの設置と、教育の質を改善することを目指した現職教員の育成研修会、教材開発、補助読書教材の作成（紙芝居・絵本出版）、移動図書館活動を実施しています。

これらの事業では、継続性を担保するためのガバナンス強化を目的として、計画から実施、モニタリング、フォローアップ、フィードバックに至るまでの工程に中央と地方行政・コミュニティの参加を促進しています。

事業	2015年度の主な実績／課題
<p>1. 教育のアクセスの改善 （施設改善事業）</p> <p><プロジェクト目標> 「少数民族の子どもたちのための小学校施設がコミュニティ参加を通じて改善される」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 雨季が終わる 9 月に、施設改善事業の対象小学校 3 校の建設工事を開始しました。校舎に使用する木材を住民が調達し、建設中のモニタリングにも教員・住民・現地の行政が行っていることは、参加型である本事業の主な工程の一つになります。この小学校建設事業の成果の一つに、2014 年度-2015 年度の比較で、1 教室当りの児童数が 41.56 人から 28.20 人に減ったことは、教員の負担を減らし、学習に適した環境の向上につながります。 <p><課題> ヴィエンカム郡は山がちな土地にあることから、建設資材の搬入や建設に必要な水を確保することが難しく、工期の遅延が発生しやすい状況になっています。このことを受けて、教育行政官と共に阻害要因を見越した運営計画を立てることを進めています。</p>
<p>2. 教育の質の改善 （指導能力改善事業）</p> <p><プロジェクト目標> 「就学前・初等教育における少数民族の子どもたちへの指導・授業のための教員の技術が向上する」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員と教室の不足が原因の複式学級において効率的に授業を行うための手法を習得する研修会を実施しています。教員の人数が不足している上に、教員になるための研修を満足に受けて来られなかった教員が大半です。 ● 移動図書館活動を 31 校の小学校を対象に実施しました。 ● 少数民族の民話を題材にした絵本と紙芝居を 2 タイトルずつ出版し、2016 年 2 月に完成する予定です。 ● 少数民族の子どもたちが、ラオス国の公用語のラオ語を学習する時に活用できる教材の「フラッシュカード（単語カード）」の作成を開始しました。完成は、2016 年 8 月頃を目指しています。 <p><課題> 移動図書館活動を実施するための技能の向上を図っています。</p>

ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所

2015年度の振り返り

2015年、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプがタイ側国境に公式に設立されてから31年が経ちました。ここ数年の間に、第三国定住や難民による自発的帰還も進み、現在は約11万人の人々がタイ政府が公式に認めている9カ所の難民キャンプで生活をしています。

2014年後半から2015年初めにかけて、カチン州、シャン州、カレン州でミャンマー(ビルマ)政府軍と少数民族軍との間で激しい衝突が続き、全国停戦合意に向けた話し合いが中断した時期もありましたが、2015年3月末に両勢力の間で停戦合意の最終案が合意に至り、続けて少数民族側で最終的な合意に向けた調整が行われました。2015年10月には、少数民族の15団体中、8団体がこの停戦合意の最終署名が行われています。これにより、長年に渡って続いてきた政府軍と少数民族軍との戦闘によいよ終止符が打たれることが期待されています。また、2014年末からはタイ政府、ミャンマー政府間の帰還に向けた話し合いが開始され、2014～2015年にかけて帰還に関する議論は大きく進展、タイ政府とUNHCRが作成した2015～2017年の難民帰還計画には、ここ数年の間に多くの難民が帰還するとの予測が記されています。しかしながら、難民キャンプ内では大規模帰還までより多くの時間を要するものと捉えられており、難民の実際の声とのかい離が浮き彫りになってきています。

2000年に開始した活動の中で、コミュニティ図書館の活動は定着が進んできましたが、一方で難民キャンプは自治統治が脆弱且つ不安定な生活空間であることに依然代わりありません。ニーズは増す一方で、近年は第三国定住等の理由から人材の流出が著しく、高い質を維持した図書館活動の定着が困難になっていることが課題の一つとなっています。

事業	2015年度の主な実績／課題
<p>1. ミャンマー(ビルマ)難民キャンプにおける読書推進普及事業・第5フェーズ</p> <p><プロジェクト目標></p> <p>「読書推進や文化の活動がカレン教育部会との提携において、教育プログラムの中で普及される」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民全体を対象に実施しているコミュニティ図書館の運営に関して、キャンプ図書館関係者を対象に、図書館運営の主体性を持つ意識を高めることを目指した研修会を実施しました。研修会の対象者は、カレン難民キャンプ委員会、キャンプ事務所教育部会、図書館員としています。定住等で図書館員の離職が多く、図書館員の入れ替えが継続しているため、この研修会は毎年実施しています。 ● 学校教育の質の改善に貢献する図書館事業として、図書の貸し出しだけでなく、図書を授業の補助教材として活用する手法を習得する研修会を、保育所、小学校、前期中等・後期中等教育の教員を対象に実施しました。また、図書館から遠い地域にある学校でも図書を利用できるように、箱に図書を入れて搬入・保管することできる移動図書箱配布活動を実施しました。 ● 将来的な帰還を見据え、難民キャンプ内の住民が多くのミャンマー本国の情報や知識を得ていくために、ミャンマー本国で購入した本が新聞、雑誌、一般教養書などを配架し、また図書館内のパソコン(オフライン)でも情報を得られるようにしています。 ● カレン語とビルマ語の絵本と小学校3年生の教員用の教科書ガイドブックの出版を行い、難民キャンプ内の21カ所の図書館に配布しました。

アフガニスタン事務所

2015年度の振り返り

学校数は年々増加しており 16,000 校まで増えましたが、いまだに半数には校舎がありません。純就学率は 72% (男子 82% 女子 61%) にまで改善しましたが、いまだに少なくとも 350 万人の子どもが小学校に通っていません。女性教員が不足しているうえ、教員の 68% は無資格です。

学校は反政府武装勢力のターゲットとなっており、2014-15 年度に少なくとも 73 件の学校に対する簡易爆弾等による攻撃が行われ、11 名の子どもが死亡し、46 名が負傷しました。2015 年 8 月にはカブールからカンダハルへ数万冊の教科書を輸送中のトラックをタリバンが襲撃し、これらの教科書を焼き捨てました。

2015 年 9 月には北部の主要都市クンドゥスをタリバンが一時占拠しました。シャンティの事務所があるナンガハル州ではタリバンだけでなく IS も勢力を拡大しました。

事業	2015年度の主な実績／課題
<p>1. 学校建設を通じた初等教育改善事業 フェーズ 4</p> <p><プロジェクト目標> 「安全で快適な教室で学ぶ児童数の増加する」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● カブール市にて 2 校の学校を建設しました。2016 年 3 月下旬の新学期からは、これまでテントや借上民家で学習していた児童 2,450 人が、快適な教室で学べるようになる予定です。最終的な成果は 4 月に確認予定です。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2015 年 1 月に教育省に建設許可申請を行った際、同省より校舎およびトイレの設計図の変更を指示され、教室の窓枠の強化、トイレの水洗化を行ったため 1 校につき約 1 万ドル計 2 万ドルの経費予算増加となりました。これに対して、建設機械の購入中止等による支出減、民間寄付の増加、JICA の委託事業の受注による収入増を図りました。
<p>2. 郡部における学校図書室事業 フェーズ 2</p> <p><プロジェクト目標> 「対象校において図書館活動が普及する」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 校舎建設を行った学校 2 校に図書室を設置し、9 校 291 人の教員に第 1 回教員研修を実施、15 校 62 人の図書館担当教員と図書館員に第 1 回図書館員研修を実施しました。2 校 72 人の教員に第 2 回教員研修を実施し、2 校 8 人の図書館担当教員と図書館員に第 2 回図書館員研修を実施しました。 ● 絵本 5 タイトル、紙芝居 1 タイトルを出版しました。図書出版ガイドラインや日本の専門家からのコメントに沿ってダミーの作成・改善を行いました。 ● 他 NGO 等から図書購入の要望が多いため、販売用の図書発行方針を策定し、新規出版の絵本 5 タイトルを各 500 部ずつ販売用に追加印刷しました。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ナンガハル州で治安の悪化のため、モニタリングができない学校がありました。
<p>3. 児童の読書推進事業</p> <p><プロジェクト目標> 「対象地域において子どもの読書活動が普及する」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ナンガハル州の公共図書館 5 館とカブール市の国立図書館にて 2014 年度に出版した図書の供与、モニタリングの実施をしました。 ● ジャララバードにて子ども図書館を運営し、図書活動、文化活動、特別教室、月例行事を実施しました。

ミャンマー事務所

2015年度の振り返り

今年3月末に16の少数民族武装勢力と政府との間で停戦合意が結ばれ、11月8日には5年ぶり、2011年3月の民政移管後初となる総選挙が実施され、国民民主連盟（NLD）が圧勝、4月からは新政権への移行が実現する見通しとなりました。

シャンティは、ミャンマーでの事業開始から2年目に入り、事業運営面では1年目の経験を活かして「寺院学校改善事業」、「ノンフォーマル教育改善事業」、「児童図書出版改善事業」各事業の質とスピードがアップしてきています。7月には外務省 NGO 連携無償による「図書館改善事業」も2年次が開始され、ピー県に続き、タヤワディ県の8つの公共図書館で児童サービスの導入/改善を実施中です。引き続き、各事業のモニタリング実施と関係機関との連携を強化し、また、事務所現地職員の能力強化を重点的に取り組んでいきます。

事業	2015年度の主な実績／課題
1. 寺院学校改善事業 <プロジェクト目標> 「寺院学校の学習環境と教育の質が改善される」	<ul style="list-style-type: none"> ● 寺院学校3校の建設が完了し、884人の児童が安全で快適な校舎を得ました。 ● ピー県にある15校の寺院学校の教員を対象に教員研修会を実施しました。 <課題> <ul style="list-style-type: none"> ● マンパワー不足のため、更なる業務効率化の必要があります。 ● 2016年以降の建設候補選定は、距離・規模など課題が多い事が判明しました。
2. ノンフォーマル教育事業 <プロジェクト目標> 「参加者の知識と技能が改善される」	<ul style="list-style-type: none"> ● 「学校に通っていない子どものためのライフスキル教室」をピー県の3つの村で実施し、10歳～17歳の子ども102人が無事に終了しました。 ● 「学校を途中退学してしまった子どものための夜間小学校」をタヤワディ県の3つの村で支援、10歳～14歳の子ども20人が進級または卒業しました。 ● ピー県の3つの村の「地域学習センター」で、地域美化運動、仏教日曜学校、などの活動を行いました。 <課題> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業の運営主体であるミャンマー識字リソースセンターが大幅に縮小・職員削減されたため、モニタリングなどの連絡調整がより困難となりました。
3. 公共図書館改善事業 <プロジェクト目標> 「公共図書館における児童サービスが改善される」	<ul style="list-style-type: none"> ● タヤワディ県8館の公共図書館に家具と図書を供与し、児童スペースを設置しました。2年目となるピー県の6図書館にも図書を追加寄贈しました。 ● 日本から専門家を派遣し、タヤワディ県8館の図書館員たち対象に図書館研修を実施し、児童サービスを導入しました。研修2回目のピー県の6図書館でもフォローアップ研修を実施しました。 ● 3輪オートバイを改造した移動図書館バイクを上記14館の図書館に供与し、図書館へのアクセスのない学校などで移動図書館活動が実施されました。 <課題> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共図書館員が多忙なため、児童サービスや移動図書館活動の実施回数が限られています。情報省・行政との連携を強め、図書館員の増員など、児童サービス定着のための提言をしていきます。
4. 児童図書出版改善事業 <プロジェクト目標> 「児童図書出版の質が改善される」	<ul style="list-style-type: none"> ● ミャンマー作家協会との共催で「友人」をテーマに、絵本コンクールを開催しました。選考の結果6作品が受賞し、2作品の出版が完了、残り4作品は2月には出版完了の予定です。 ● 専門家を派遣、作家・画家・編集者対象に絵本制作研修会を実施しました。 ● 英語からビルマ語に翻訳して教育図書を1タイトル出版しました。 <課題> <ul style="list-style-type: none"> ● 多忙なミャンマー作家協会との連絡調整は依然として困難で、将来的にはパートナーシップの見直しも視野に入れていきます。

気仙沼事務所

2015年度の振り返り

大震災発生から5年を迎える気仙沼市では、住宅整備が遅れています。2015年末時点で災害公営住宅は8か所合計416戸への入居が行われましたが、住宅全体の計画(2,133戸)に対して19.5%の進捗率です。2016年内に1,287戸が完成予定ですが、430戸(全体の約20%)の完成が残り、全ての災害公営住宅への入居が完了するのは2017年春となります。

気仙沼事務所では「つながる人の和」を掲げ、復興まちづくりの「しくみ」の地元定着化とそのために必要な人材の育成に取り組みました。2016年5月に予定している気仙沼事務所の閉所後も、地元の方々が「まちづくりの活動」を継続して行うことを見据えて、2015年は、地元出身の職員2人に団体運営と活動の経験を積んでもらうことと、地元メンバーによる「NPO法人 浜わらす」の立ち上げ支援に重点を置きました。

事業	2015年度の主な実績／課題
<p>1. まちづくり支援事業</p> <p><プロジェクト目標> 「地域住民の合意形成の場と機会がある」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 復興まちづくり支援：階上地区まちづくり協議会による「震災遺構」に関する取り組みに着手し、活動助成金の申請・運用に関する助言など行いました。 ● 防災集団移転支援：専門家派遣の調整支援をしている登米沢(とよまざわ)地区の移転協議会に加盟する全6世帯のうち、4世帯が移転を完了しました。 ● 前浜コミュニティセンター支援(2013年9月完成)：2015年度も地区内外で多くの方がセンターを利用、地区外住民の利用のうち16回を当会が調整しました。 ● 「つむぎの会」：震災で家族を亡くされた方々の集いの場の運営支援(10回開催)。男性が参加しやすい環境づくり、地元メンバーによる運営の支援を実施。
<p>2. 子ども支援事業</p> <p><プロジェクト目標> 「子どもたちが遊びや学びを通じて自己表現をする場と機会がある」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「あつまれ、浜わらす」：25回のプログラム(親子海体験など)を実施、延べ286人の子どもの参加と延べ188人の地域の方々の協力を得ました。2月には「NPO法人浜わらす」が設立され(8月法人格取得)、本格的な引き継ぎに向けてプログラムの改良や職員の能力強化、地域協力者・団体の開拓を行いました。 ● 「あそびーばー」：既に地元団体としての運営が軌道にのっていますが、「NPO法人浜わらす」と活動・運営面における協力を検討しています。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「あつまれ、浜わらす」で事故(参加した子どもの負傷)が発生し、安全面での体制や人材育成の強化が必要です。また、NPO法人運営の安定化のために助成金や協賛企業の獲得を通じた活動資金の確保が課題です。
<p>3. 生業支援事業</p> <p><プロジェクト目標> 「生産者(蔵内)が外部者との関わりを通じて活動を活性化できる機会がある」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「芽組」(めぐみ / 養殖漁師)支援：漁村の活性化をめざし、加工場が8月に完成。芽組の法人格取得について協議をしました。ワカメの収穫は震災前と同程度に戻り、ホタテ・ホヤの収穫も軌道にのるなど復旧の目処がたちました。 ● 「海の駅 よりみち」支援：地域活性化を目的としたイベント(ほや祭り、年末大売出しなど)を5回実施し、広報や事前準備については地元メンバーが担当するなど、自立化に向けて工夫しながら取り組みました。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全ての事業に通じますが、どこまで支援継続を行うのか見極めが課題です。

岩手事務所

2015年度の振り返り

2015年、岩手県の被災地では大型の災害公営住宅と高台移転団地が完成したことで、仮設団地からの転居が日々進みました。2015年12月時点で、仮設団地の入居率は約60%と未だに高い数字ですが、多くの方が仮設団地を出る見通しがようやく立ち、それぞれが希望する団地・宅地の完成を待つ段階になりました。被災した図書館の再建の計画も決まり、陸前高田市が平成28年度内、大槌町が平成30年度内の予定となり、一日も早い再開に市民の期待が膨らんでいます。

仮設団地から住民が転出する中、岩手事務所では未だ仮設団地から出るまで時間を要する方々を中心に本に触れられる場、交流の場づくりを継続しました。

今後も復興にはまだ長い時間がかかることから岩手事務所の閉鎖後も成果が持続するように、山田町、大槌町、大船渡市の活動を地元行政・地元組織へ引継を行うことに決め、2015年12月までには引継をおおむね完了させることができました。

事業	2015年度の主な実績／課題
<p>岩手県における図書館活動を通じた東日本大震災被災地支援事業</p> <p><プロジェクト目標> 「今後も長く続く復興期において、被災者、被災地にとって必要な図書サービスが行政、住民と共に築かれる。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2015年度も引き続き、移動図書館活動、図書室の運営、文庫活動を行いました。一年間で約10,000人の方に利用いただき、約22,000冊の図書を貸し出しました。本を借りられる場の提供とともに、交流の場づくりに注力しました。 <p><山田町> 山田町教育委員会と業務提携を継続し合同で移動図書館を実施。協議を重ねて2016年1月から山田町立図書館へ活動を引継ぐことが決定しました。それに伴い12月に岩手事務所による移動図書館活動を終了し、山田町立図書館へ車輛の寄贈をしました。</p> <p><大槌町> 地元の読書ボランティア会「このゆびとまれ」と文庫活動を協働して行いました。協議を重ねて仮設団地での文庫活動を「このゆびとまれ」に引継ぐことが決定しました。</p> <p><大船渡市> 地元の読書ボランティア会「おはなしころりん」と復旧した三陸公民館において、移動図書館活動を合同で行いました。</p> <p><陸前高田市> 地元住民を中心に構成される陸前高田コミュニティ図書室 友の会の運営を継続しました。また、新陸前高田市立図書館に関わる検討委員に任命され、新しい図書館づくりについての提言を行いました。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 陸前高田コミュニティ図書室 友の会を設立したものの、運営を担う組織にまでは至っていないことが課題です。

山元事務所

2015年度の振り返り

2015年に入り、仮設団地から災害公営住宅などへの引っ越しも加速し、山元町では住民の3分の2以上が退去した団地も出てきました。基幹路線のJR常磐線の復旧工事も順調で、復興は目に見える形で進んでいます。一方で、山元町においては、一部の災害公営住宅の完成が当初の計画より1年近く遅れるといったことがあり、南相馬市でも、避難指示をいつ解除するかという決定の発表自体が2016年2月下旬まで先延ばしになるなど、将来の不透明感に、仮設団地に「取り残された」人たちの不安や焦りは増すばかりです。

山元事務所では、復興に向かう中で広がる格差を見逃さず、仮設団地に「残された」人たちに対して、だれもがみな立ち寄りやすい居場所を、移動図書館という開放的な形で提供し、2015年も心安らぐ場づくりや住民交流のお手伝いをしてきました。事務所の立ち上げから続いたブックオフコーポレーションによる人的支援は3月末で終了したものの、曹洞宗福島県青年会とともに、新たに南相馬市立中央図書館の職員が運行サポートに加わったことで、活動を安定して続けることができました。

2015年秋には山元事務所付の福島事業担当者が決まり、南相馬市内の避難指示解除に合わせた、本格的な活動開始のための素地を築くことができました。

事業	2015年度の主な実績／課題
<p>宮城県および福島県における図書館活動を通じた東日本大震災被災地支援事業</p> <p><プロジェクト目標> 「東日本大震災および原発事故により仮設住宅暮らしを強いられた人たちが、シャンティの移動図書館活動などを通じて自由に集える場ができる。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2015年度も引き続き、移動図書館活動を行いました。一年間で2,130の方に利用いただき、5,037冊の図書を貸し出しました。本の貸し借りだけでなく、仮設住宅に暮らす人たちの置かれている状況をよく考えながら、開放的な場づくり、心の交流が図られるよう努めました。 ● 仮設団地からの引っ越しが進み利用者数も減少傾向にあることから、「移動図書館車輛を小型のものにする」「平日のみの運行に切り替える」など、活動収束を見据えた運行規模の縮小を行いました。 ● 南相馬市立中央図書館と、シャンティが行う移動図書館活動についての情報・意見交換会を行いました。また、協働の可能性を探るため同館職員が定期的に移動図書館の運営サポートに入りました。 ● 移動図書館の訪問先でもある仮設団地において、南相馬市の子どもたちが東北に対する誇りを持てるように、東京の劇団が主催する演劇や絵画を通して気持ちを開放するワークショップや、ドイツ在住の日本人物理学者が南相馬市の小中学校で開いた特別授業の実施にも協力しました。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移動図書館の利用者に、楽しみにされ頼られることは大切だが、活動収束に向け依存され過ぎない関係づくりとの線引きが難しいことが課題です。